

## 2013 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済学部	身分	教授
氏名	塩見 英治		
NAME	Eiji Shiomi		

## 1. 研究課題

(和文) 空港運営システムの比較研究

(英文) Comparative study of Airport Operation  
system

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

世界では、1980年代以降、空港の民営化制度改革が徐々に拡大している。その背景には、グローバル化と航空自由化のもとでの競争環境の高まり、LCCの増勢などが指摘される。我が国でも遅ればせながら2010年に閣議決定された新成長戦略のもとで航空輸送分が成長戦略の重点項目の一つとして捉えられ、LCC施設の整備とセッション方式での民営化の方式が打ち出されるに至った。本研究は、欧米の改革との比較を前提としつつ、民営化と資金調達に焦点をあて、空港改革の問題課題について地域と環境変化の実状を踏まえて検討を行うものである。検討によって、プール制と利用者負担への傾斜、LCCアジア固有の拠点空港での専用ターミナルの整備促進、国主導と収支不透明な財政運営の改善、垂直的統合の是正などを明らかにし、市場環境に合った改革、官民連携、一体的運営、地域化、財源面での収入債の利用拡大などを提唱している。スロット配分も一部、インセンティブ施策の導入などを主唱している。

研究成果は、裏面の国際学会報告と研究論文、学術シンポ報告と叢書、雑誌掲載論文などである。

(英文)

Through comparative study of airport operation systems between Japan and other advanced countries, some Japanese characteristics including high level of user charges, pool financial system and, central government system have been clarified. So I propose to innovate airport operation matched to market environment, localize airport management, integrate operation system of airport and introduce some incentive measures of slot allocation.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

「首都圏空港の容量制約と横田基地の軍民共用化に関する検討」(小熊仁 共著) 『都市研究』105 巻, 5号, 2014年5月。

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

「AEBANの航空自由化とLCCの展開」(小熊仁と共著) 日韓経済経済学会, 一ツ橋大学, 2014年8月。

【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)

「LCCのハイブリッド化とパラダイム変化」(小熊仁と共著) 中央大学企業研究所叢書 『都市と流通構造の変容』  
「首都圏空港の容量制約と政策的課題」(小熊仁と共著) 中央大学研究所叢書 『東京圏の統合的研究』  
2015年3月。

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)

「人口激減における社会インフラの更新・維持」  
中央大学経済研究所叢書 『現代化する社会と3.11複合災害の経済分析』, 2014年12月。